

他人の死を待つ医療

脳死・臓器移植法 改正断固反対

■法律で人の死を定めることは間違い

人間の死は、尊厳に満ちたものでなければなりません。そして遺された者、誰もが納得して受け入れることができるものでなければなりません。それが日本人に刻み込まれた死生観です。

■「他人が死ぬのを待っている」医療の恐ろしさ

自分や、家族の命を助けるために、誰かが死んでくれるのを待っている、そんな構図の上に成り立つ医療は、医療とは呼べません。脳死・臓器移植は「愛の贈り物」ではなく、「愛への陵辱」です。

■法律を変えてもドナーは増えません

ドナーを増やすために、いくら制度を変えたりしても、ドナー不足は決して解消されません。世界各国で、すでに立証済みです。行き着く先は、検死体や死刑囚からの無断臓器摘出という、おぞましい社会です。

■移植に因らない医療技術を高めよう

臓器移植が待ちかまえているため、「助けるべき命」を救う、すなわち救急救命医療が疎かになっています。また安易に臓器移植に依存する医療は、最先端の医療技術や医薬品開発の妨げになっています。

■遺される家族に心のケアを

延命のための延命医療を見直し、患者の苦痛を取り除くことに主眼をおく医療を。そして遺された家族の心に平安を導く、専門家による心のケアを医療現場に取り入れよう



全国交通事故遺族の会

会長 井手 渉